

福音とは「よい知らせ」という意味です。主イエスによってよい知らせがこの世に伝えられた、天国が近づいたと知らされた、貧しい人や蔑まれている人達に対し、主イエスは真っ先に友となられ、救われた。それがよい知らせの具体的な意味であるわけです。私達に取りましても福音は本当に心を打つ存在です。福音がなければ私達は希望も愛もそして命もないのです。この世に福音が示されたというのは主なる神の決断であり、喜びの訪れであったのです。

さて、さきほどの本日の福音書を見て、私達は厳しい印象を受けます。

『わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、娘を母に、嫁をしゅうとめに。こうして、自分の家族の者が敵となる。わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。また、自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである』。

同時に疑問をもつ言葉ではないでしょうか。敵対させるために来た、自分の家族が敵となる。主イエスはここで家族を否定なさったのでしょうか。もちろんそんなはずはありません。私達は神の家族であり、主なる神の結び合わせによってつくられた家族を主イエスが否定なさるといふのは考えられないことです。ここで教えられているのは、主なる神は私達を愛されるゆえに私達に決断を促されるということです。私達が主なる神を二の次にしたり、主なる神に従うと言いながら他の存在に寄り頼んでいたり、私達のそう言う生き方に主イエスは挑戦するためにこの世に来られたということです。私達が主なる神に愛されることだけに留まっていたい、新しい決断や主なる神の使命にかかわりたくない、主なる神より与えられる恵みには用があるが、自分の務めや、苦勞や困難には用がない、そのように考えて集っている人々に対し、共に同じ考えでいるからそれでいいことにはならない、私はそれぞれに決断を促すために来たということなのです。主なる神は私達を愛されると共に決断を促される方であるということなのです。

この主イエスの言葉が語られたのは、直接にはユダヤ人に対してのものでし

た。ユダヤ人たちは、自分たちが主なる神に義とされたアブラハムの子孫であるがゆえにすでに天国の座を約束されたものであると誤解し、自分自身が正しく生きることよりも血統すなわち血筋を重んじました。その結果人々の間から正義が失われ、正しく生きることよりもファイサイ人や律法学者たちに気に入られることの方が大切なことになってしまいました。しかも血筋を重んじるがゆえの全体意識、一人がよければ全てよい、ひとりが悪ければ全て悪い、という意識がありましたので、主なる神に寄り頼むことよりも家族意識や同族意識のほうが優先されがちだったのです。主イエスはそのようなユダヤ人たちに、主なる神は一人一人を愛されていること、そして一人一人に主なる神の前に立ち、一人一人が主なる神の前に使命を果たさなければならないのを示しているのです。

マタイは、主イエスに従うことを示すため、あえて従い切れていなかった弟子たちの姿を福音書に記しております。ペトロはあるとき、主イエスに「このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました。では、わたしたちは何をいただけるのでしょうか」と言ったことがあります。また他の弟子が、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った時、主イエスは「わたしに従いなさい。死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい」と言われました。ペトロは主イエスに従うのを交換条件にしていました。もう一人の弟子は、父を葬るといってもっともなことを言って主イエスに従うのをあともわしにしようとしていました。この時主イエスは父を葬るのをお許しにならなかったのではなく、このようなことを言う人は、何にしても主なる神に従うことを後回しにしてしまうと言っているのです。こうして私達自身が主なる神の前に立つこと、そしてそれぞれに決断が求められていることが教えられているのです。

そして私たちは、本日の福音書の最後の言葉、「この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける」に大きな希望と慰めを与えられます。本日の聖書の個所は厳しい内容でありつつも、どんな小さなことでも、主なる神の御心にかなうこと、人のために尽くす者は必ず、神の国において報いを受けるというのです。主なる神は、人間が誰も気づかなかったとしても、誰もわからなかったとしても、御心にかなう良い業を喜ばれ、神の国に迎え入れられるにふさわしい者としてくださるといいます。厳しい教えは主なる神の御心であり、それは時として、私たちがあきらめたり、失望したりしることになりがちです。しかし、主なる神はどんな小さな業でも必ず

報いてくださるのです。この希望と喜びを忘れず、日々の生活に生かしていきたいものです。